

ご意見募集！

広報誌をより良くしていくためにみなさんからのご意見を募集しています。ご意見をお送りいただいた方の中から抽選で3名様に日南町の特産品をプレゼントいたします。

送り先：〒689-5292 日南町役場 企画課 広報担当

手紙、はがきに①住所②お名前③電話番号④ご意見・ご感想をご記入の上、企画課まで郵送またはお持ち込みください。みなさんからのご意見お待ちしております！（※メールでは受けつけておりませんのでご注意ください。）

今月の
表紙

「炎に願う 無病息災」

2月号は、震地域に古くから伝わる正月の伝統行事「震のドンドさん」についてご紹介します。

かすみ

震のドンドさん

震のドンドさんは、江戸時代から行われている正月の伝統的な左義長の神事。「左義長」とは小正月に行われる火祭りの行事で、どんど(とんど)焼き、どんど(とんど)さんなど、地方によって呼び方が異なるが、全国で広く見られる習俗である。現在でも松飾りやしめ縄を焼く行事として各地で行われている。

震のドンドさんの歴史は長く、震地域にあった「御注連午王宮おしめごおうぐう(御注連神社)おしめじんじや」という神社が行っていたのが始まり。大正10年に御注連神社は震神社に合祀され、現在に至る。

広い田んぼの中央に立てた青竹から八方に縁起物の猿を吊るしたしめ縄が張られ、青竹の周りには各家庭から持ち寄った正月飾りが集められる。神主の祝詞とお祓いのあと、正月飾りに火がつけられ、青竹が倒される。この時、張られたしめ縄に付けられた猿を取ることで、一年の無病息災が叶い幸運を招くといわれ、多くの人が集まる。

平成27年には日南町無形民俗文化財に指定された。



今年のドンドさんは1月15日(日)に行われ、雪が残る田んぼに地域のみなさんが大勢集まりました。

ドンドさんの準備は毎年班ごとの順番で行い、今年は1班・2班が担当です。前日から準備が行われ、いよいよドンドさんの当日を迎えました。



震のドンドさんは、古くは上手・下手に高さ10メートルものやぐらを組み、その上に青竹を立てて飾り付けた壮大なものだったようです。その飾り付けは、若者たちが新調した下着や着物を身に着けて集まり、地域総出で行っていたそうです。

現在のドンドさんでは、田んぼの中央に青竹の支柱を立てられ、そこから八方に張られた縄には、猿をかたどったぬいぐるみやお菓子などが結びつけられています。支柱の一番上には「天下」と呼ばれる一番大きな猿が付けられており、この「天下」を取るとその一年は幸運で過ごせると言われています。

午後3時。いよいよドンドさんの開始です。はじめに震神社の宮司による神事が行われます。

神事後は火入れ。この火は代々、飛田家(旧・岸本家)から運んで来るものと決まっており、昔は年末に囲炉裏の灰をすべて取り除き、塩で清めて新しい薪を燃やし、熾おきを作って火入れの準備をしたそうです。

長い歴史のある震のドンドさんですが、明治40年頃に一度は中断しました。しかし、住民の心の中でドンドさんの火は消えることはなく、復活を望む多くの声と伝統行事を守ろうという人たちの努力で復活。

明治・大正・昭和・平成・令和と、ドンドさんは少しずつ形を変えながら現在に至ります。

